

# 就活生の横の繋がりを重視した コミュニケーション基盤に関する研究

唐澤 直樹<sup>†</sup>、土屋 健<sup>‡</sup>、澤野 弘明<sup>§</sup>、広瀬 啓雄<sup>¶</sup>、山田哲靖<sup>//</sup>、三代沢 正<sup>\*</sup>、小柳恵一<sup>※</sup>

諏訪東京理科大学<sup>†</sup>、諏訪東京理科大学<sup>‡</sup>、愛知工業大学<sup>§</sup>、諏訪東京理科大学<sup>¶</sup>、諏訪東京理科大学<sup>//</sup>、  
諏訪東京理科大学<sup>\*</sup>、早稲田大学<sup>※</sup>

## 1. はじめに

### 1.1 研究の背景と目的

就職活動(就活)生は、就職活動を進めるにあたり、内定を獲得するために、就職を希望する業界、企業に関する情報、就職試験での傾向など多種多様な情報を収集して備えることになる[1]。このとき、就職活動で利用される情報とは、社会人としての基本スキルである敬語の使い方、電話のかけ方、メールの書き方、履歴書の書き方といったマナーと、就職対象とする企業の知識である待遇、職種、勤務地といった基本情報である。

しかし、企業の雰囲気、働いている人の印象、試験や面接の様子といった就活生としては気になる企業の内部に関する情報は、インターネットでは簡単に手に入れることはできない。これを得るためには、企業でのインターンシップ、企業訪問が必要であり、エントリーした企業全ての情報を得ることは現実的に不可能である。そのため、同じ就活生と情報共有をすることで効率よく就職活動を進めることができると考える。

従って、本研究は、就活生が活動に有用な情報、効果のある情報を得るために、就活生間で横の繋がり(連帯感)を活用した就活生向けの情報基盤となるSNSアプリを提案している。提案手法の評価として、実装したアプリを用いて、就活のステークホルダとなる学生、大学就職担当のインタビュー調査に基づき、提案手法の実用性に関する評価を行っている。

### 1.2 横の繋がりについて

一般的な学生に”横の繋がりとはどのような関係か?”という問いに関する聞き取り調査を実施した

Research on Communication Platform

Solidarized for Job Hunting Students

<sup>†</sup>Naoki Karasawa, Tokyo University of Science, Suwa

<sup>‡</sup>Takeshi Tsuchiya, Tokyo University of Science, Suwa

<sup>§</sup>Hiroaki Sawano, Aichi Institute of Technology

<sup>¶</sup>Hiroo Hirose, Tokyo University of Science, Suwa

<sup>//</sup>Tesutyasu Yamada, Tokyo University of Science, Suwa

<sup>\*</sup>Tadashi Miyosawa, Tokyo University of Science, Suwa

<sup>※</sup>Keiichi Koyanagi, Waseda University

ところ、就活生間の横の繋がりとは、情報共有、仲間意識、共通の話題という要素を含んだ人間関係であるという結果を得た。これを踏まえ、本研究で対象にする就活生の”横のつながり”とは、就職活動で有用な情報となる”横のつながり”であり、本研究の目的はこの”横のつながり”を構築、管理することができる情報基盤を構築することであるといえる。

## 2. 提案手法

就活生の横の繋がりを具現化する手法として就活生のみを対象としたSNSを構築することで課題へアプローチする。提案するSNSでは、実際の就職活動の場で活用することを想定し、PCのブラウザとスマートフォン両方から利用できるように、ハイブリッドアプリケーションとして実装している。主たる目的である横の繋がりを取得する機能は、就活生が経験や感じたことをつぶやくことで情報共有を行う掲示板機能と、業種や企業からこれら情報を検索する機能、ユーザーが書きこまれた情報に共感する共感機能を備えている。また、就活を支援する機能として、忘れ物を防止するためのリマインダー機能、企業の場所を検索するための地図機能を有している。

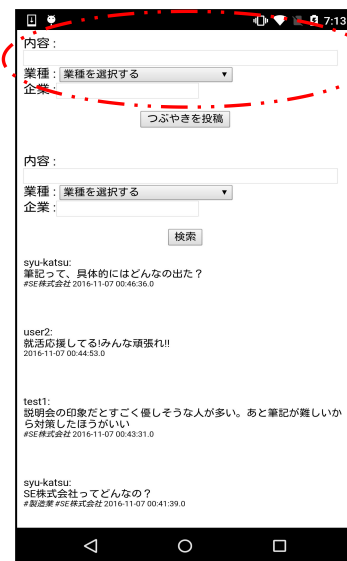


図1. 掲示板機能

図1は実際の掲示板機能の画面である。枠部分で示したフォームでテキストを入力する。テキストのみでも送信は可能だが、それに紐付けして、業種や企業名を入力し、「つぶやきを投稿」ボタンを押すことで登録することができる。

### 3. 評価

#### 3.1 評価方法

提案した就活生を対象とする SNS の特徴である横の繋がり機能と、共感機能について提案手法の有効性、実用性評価のため、想定される利用者である情報系の研究室に所属する3年生4人と、4年生7人、そして大学の就職担当にインタビュー調査[2]を実施した。学生へのインタビュー調査において、質問内容、プライバシーの保護、インタビュー中は録音をすること等の旨をまとめたインタビューガイドを作成して渡し、事前に了承してもらった。また、ユーザーにとっての書きこむ動機、見る動機を捉えることを目的としているため、ユーザーごとに適宜、質問順序の入れ替えや、質問内容の変更を行った。

#### 3.2 評価結果

結果として、学生は、書きこむかどうかという質問に対して、6人が書きこむ、5人が書きこまないと答えた。書きこむと答えた人は、SNSで発信することが習慣化しており、仲の良い人がいるのであれば発言すると回答した。つまり、日常の SNS の利用スタイルが書きこむか否かに影響していることが判明した。

次に、SNSに提供される情報として、想定される就活の成功体験、内定報告は活動時期の中盤から終盤に大部分が提供されることが大学就職担当より明らかとなっている。また、就活における失敗体験は成功体験よりも気軽に書きこめるという回答が得られたことから、就職活動の前半では失敗体験が、後半では成功体験が目立つことになると予想される。加えて、利用者としてどのような情報を SNS から取得したいかという質問に対し、内定前は失敗体験を、内定後は成功体験も失敗体験も見たいという回答を得た。つまり、情報が書きこまれる時期、情報を取得したい時期と内容が一致しており、提案する就活を対象とした SNS に積極的に情報の集約が可能であるならば、就活向けの情報基盤として利用が有用であることを示している。情報集約するための方策として、提供された情報に対する共感機能について、共感されたいがために書きこむ動機に繋がることと、その共感されている情報をチェックしたいという回答が得られた。そのため、共感機能は書きこむ動機と見る動機の両方に貢献することが期待できると言える。

### 4. 考察

#### 4.1 評価結果の考察

評価結果から、提案手法では、横の繋がりを提供するために、現在実装されているつぶやきへの共感機能だけでは SNS への情報提供の訴求力は充分とは言えない。多くの就活生を SNS へ介入させ、情報基盤としての有効性を高めるためには、SNSでの情報発信が習慣化している就活生を中心に情報提供を推進する方策が必要と考える。具体的には、現在の共感機能に加え、情報提供者へのポイント制などの特典のスキームが必要であると考えられる。

#### 4.2 アプリケーションの今後の課題

現在の実装したシステム、アプリケーションは、手軽にスマートフォンから見られるという点や、他の就活生のつぶやきが簡単に SNS として見られるといった点は高評価であり、アプローチの方向性は実システムとして実用性の観点では有効であるといえる。しかしながら、主たる機能である横の繋がり機能の提供する情報の品質が提案システムとしての有効性に大きく影響する。従って、就活生に積極的に情報提供を促すための工夫が課題になる。現在の実装では、横の繋がりを利用する上で、仲間意識と地域性に関する機能を有していないため、地域や業種・職種といった情報をユーザーが更に詳しく選別できるようにすることで、より有益な情報共有が可能になると考える。

#### 参考文献

- [1] 下村 英雄, 堀 洋元 2004  
「大学生の就職活動における情報探索行動：情報源の影響に関する検討」労働政策研究・研修機構, 社会技術研究システム『社会心理学研究』, 20(2), 93-105.
- [2] 大分県情報サービス産業協会「ユーザビリティ評価基準の作成」  
<http://www.oisa.jp/20ronbun/Usability/2008-Usability.pdf>